

芹沢光治良 小説家。<戦時>に多くの創作、60過ぎにノーベル文学賞候補となり、年齢を加えるほど高く評価された。

せりざわみつじろう

白馬会・・・1896 = 静岡県駿東郡楊原村の代々網元の家の長男に生れた。

ビ7/国産化・1900 = 4歳：父が天理教の伝道生活に入ったため、

田中正造直訴1901 = 5歳：祖父母・叔母とともに叔父と同居。

日露戦争始・1904 = 8歳：楊原小学校に入学。

日露戦争終・1905 = 9歳：

神童であったが、生活は困窮を極めた。船酔いのため漁師をつがず、進学を志す。

韓国併合・・・1910 = 14歳：卒業。県立沼津中学校に入学し、援助を得て通学。

大逆事件判決1911 = 15歳：文芸部委員に選ばれ、以後、特待生。{学友会報}に作文や短歌を発表して行く。

明治天皇没・1912 = 16歳：絵画担当教師に啓発されて{白樺}を読む。

大正政変・・・1913 = 17歳：学芸部委員。学友と回覧雑誌を出す。

第一次大戦始1914 = 18歳：学芸大会で2等賞。

21ヶ条要求・1915 = 19歳：演説1等賞。学力優等、精勤者として卒業。沼津町立小学校の代用教員になり、家庭教師先に住み込む。

民本主義・・・1916 = 20歳：第一高等学校仏法科に入学し、1年間寮生活。

ロシア革命・1917 = 21歳：有島武郎の{草の葉}に参加。経済的に寮生活が困難になり、アルバイトしながら通学。

本格政党内閣1918 = 22歳：文芸部委員に選ばれ、{校友会雑誌}に発表。

ハルビン条約・1919 = 23歳：卒業し、東京帝国大学経済学部に入學。大先輩石丸助三郎に気に入られ、邸宅の一室に寄寓、以後精神上の父として慕う。同時に外務省で翻訳の仕事をする。

原敬首相暗殺1921 = 25歳：高等文官試験行政科に合格。

水平社結成・1922 = 26歳：卒業し、農商務省に勤務。東京外国語大学の夜間部で1年間ドイツ語を学ぶ。

関東大震災・1923 = 27歳：祖母が死去。役所で関東大震災にあう。

治安維持法・1925 = 29歳：愛知電鉄社長の次女と結婚。百武源吾と義兄弟の契り。渡仏し、ソルボンヌ大学に入学、貨幣論を研究。

金融恐慌・・・1927 = 31歳：長女誕生。卒業論文完成直後、肺結核が発見され、フランスやスイスで療養。

共産党事件・1928 = 32歳：帰国の許可を得、上海で病床の魯迅を訪ね、東京に戻る。

海軍軍縮条約1930 = 34歳：次女誕生。中央大学講師として貨幣論を講義。*「ブルジョア」が改造社の懸賞小説で1等。

満州事変・・・1931 = 35歳：中野に家を新築。{東京朝日新聞}に「明日を運うて」を連載。以後、諸誌紙に作品を発表し続ける。

五一五事件・1932 = 36歳：軽井沢に別荘を新築。

国際連盟脱退1933 = 37歳：三女誕生。

芥川直木賞始1935 = 39歳：日本ペンクラブ会計主任となる。

二二六事件・1936 = 40歳：母が死去。{文学界}編集同人となる。

日中戦争始・1937 = 41歳：石丸助三郎が死去。義母が死去。

健保+総動員 1938 = 42歳：兄と中国を巡歴し、戦跡を見聞。四女誕生。

第二次大戦始1939 = 43歳：「愛と死の書」を刊行。

日米開戦・・・1941 = 45歳：保護検束で出頭、即日帰宅。

・・・1942 = 46歳：「巴里に死す」を連載。陸軍から中国の宣撫工作、海軍から従軍の要請があるが、健康を理由に拒否。

以後、執筆が少なくなる。

敗戦・・・1945 = 49歳：軽井沢へ疎開し、終戦を迎えた。「離愁」を刊行。

新憲法公布・1946 = 50歳：東京に戻り、仮寓。父が死去。

新憲法施行・1947 = 51歳：義父が死去。

朝鮮戦争始・1950 = 54歳：

独立回復・・・1951 = 55歳：世界ペンクラブ大会出席のため、渡欧、ローマでピオ12世に謁見。

TV放送始・・・1953 = 57歳：「巴里に死す」の仏訳を刊行。

自衛隊発足・1954 = 58歳：国語審議会委員、日本文芸家協会理事。「一つの世界 - 又はサムライの末裔」を刊行。

55年体制始・1955 = 59歳：「サムライの末裔」の仏訳を刊行。

国連加盟・・・1956 = 60歳：仏訳「巴里に死す」がベルギーの読者クラブ賞次席となる。

なべ底不況・1957 = 61歳：中野に家を新築。*「芹沢光治良自選作品集」全6巻刊行。ノーベル文学賞候補にあげられる。

メソポタミア・1958 = 62歳：仏訳「アイダ夫人」。

美智子妃・・・1959 = 63歳：フランス詩人連盟より、フランス友好国際大賞。「教祖様」を刊行。フランクフルトの世界ペン大会出席。

安保闘争・・・1960 = 64歳：

イタイ病始・1961 = 65歳：アジア・アフリカ作家会議東京緊急大会に出席。巴金と老舎が来訪。「愛と知と悲しみ」を刊行。

全国総合計画1962 = 66歳：ソビエト・ロシア作家同盟からの招待で訪ソ。「人間の運命」第1巻を刊行。

大学紛争始・1965 = 69歳：「人間の運命」全六巻が芸術選奨文部大臣賞。日本ペンクラブ会長に選ばれる。

霞ヶ関ビル・1968 = 72歳：多年ユネスコ運動に尽くした功績により、勲三等瑞宝章。

全共闘ビーク・1969 = 73歳：*ノーベル文学賞推薦委員に選ばれる。芸術院賞。

大阪万博・・・1970 = 74歳：沼津市に「芹沢光治良文学館」が開館。日本芸術院会員。

日中国交回復1972 = 76歳：長女が死去。「遠ざかった明日」刊行。日本文化国際会議開催のため各国に出席要請訪問、議長を務める。

石油ショック1973 = 77歳：NHK銀河テレビ小説で「坂の上の家」を放映。

角栄金脈辞任1974 = 78歳：「芹沢光治良作品集」全16巻刊行。日仏文化交流功労者として、コマンドール章。

クランブル事件1975 = 79歳：「レマン湖のほとり」を刊行。

JAL/インチャック・1977 = 81歳：

貿易摩擦問題1980 = 84歳：沼津市名誉市民。

・・・1981 = 85歳：「愛の影は長く」を刊行。

中曽根内閣・1982 = 86歳：妻が死去。

バブル始・・・1986 = 90歳：「神の微笑」を刊行。以後、「神の慈愛」「神の計画」「人間の幸福」「人間の意志」「人間の生命」「大自然の夢」と毎年一冊ずつ刊行し、

55年体制終・1993 = 97歳：*自宅でふだんどおり原稿執筆後、老衰のため没した。

新潮日本文学アルバム、「この人どんな人」